

令和6年度 印旛地区教育研究集会

国語科 「読む」分散会 四街道市立千代田中学校 提案資料

研究主題

作品を読み、感じたことを共有することによって、自分の思いや考えをさらに深める工夫



1 研究主題

作品を読み、感じたことを共有することによって、自分の思いや考えをさらに深める工夫

2 主題設定の理由

(1) 学習指導要領から

本研究主題は平成29年告示中学校学習指導要領の教科の目標を受けて設定した。

『言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成することを目指す。』

国語で正確に理解し適切に表現する能力を育成するためには、読みの力を高め、自分の考えを深めていく必要がある。自分以外の意見を聞き、様々な角度から考えたことを取り入れることで自分の思いや考えが深まると考え、本主題を設定した。

(2) 学校教育目標等

○学校教育目標

自ら未来を切り拓く知力・活力の育成

○目指す生徒像

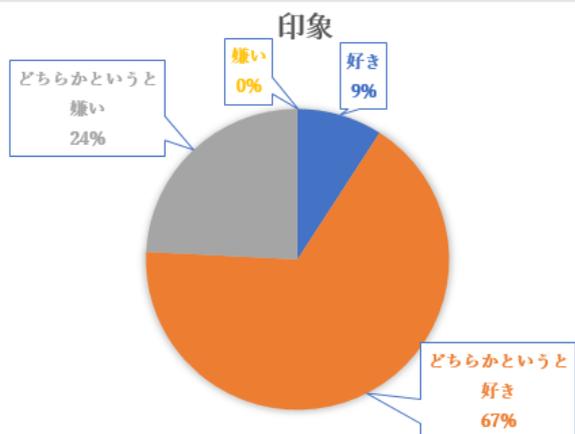
- ・意欲をもって主体的に学ぶ生徒
- ・自分の行動に責任をもち、正しい判断のできる生徒
- ・心身が健康で活力のある生徒
- ・多様な価値観を認め、他者を尊重できる生徒

(3) 生徒の実態

本校は、2、3学年4クラス、1学年5クラス、特別支援学級4クラスの合計17クラス、全校生徒454名の学校である。多くの生徒が落ち着いて学校生活を送ることができており、部活動や習い事など夢中になれるものをもっている。また、ボランティア活動にも積極的に取り組む生徒が多い。一方で、様々な問題を抱え休みがちな生徒もいるため、昨年度より、校内教育支援センターを新たに開設し、支援を行っている。学習に対しては、参加はできるが受け身で、誰かが答えを出してくれるのを静かに待っている姿勢の生徒が少数いる。そのため、自分で課題を解決していくような授業や、グループで協力して課題に取り組むような活動を多く取り入れることで、積極的な授業参加につながると考える。

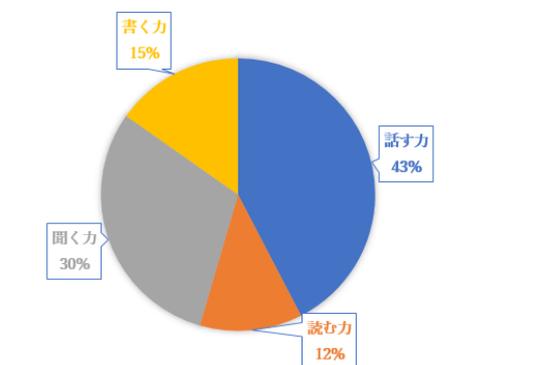
【生徒アンケート結果】

○国語の学習は好きですか。



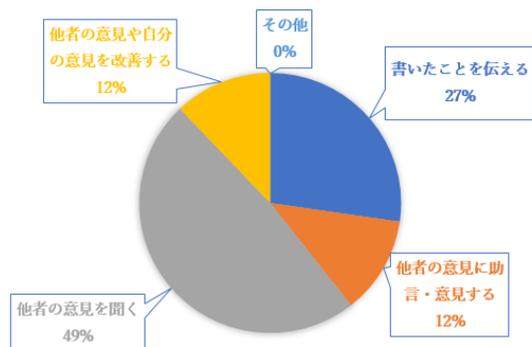
7割以上の生徒が国語は好きだと肯定的に答えている。国語のなかで意欲的に取り組もうと思う活動は「漢字の学習」や「グループ活動」と答えた生徒が多く、苦手意識がある活動は「心情や情景の読み取り」「自分の考えをまとめること」などが多かった。

○自分が身に付けなければならないと感じる力は何ですか。



生徒の半数近くが話す力を身に付けなければいけないと感じている。記述回答では「自分の意見を言うのは苦手だが大切だと思う」「人とコミュニケーションをとるうえで大切だから」「相手にわかりやすい説明をしたいから」などがあがり、生徒は自分の意見を持ち、相手に伝えるのは苦手だが、大切なことだと認識している。

○グループワークで進んで取り組もうと思う活動は何ですか。



約半数の生徒は他の人の意見を聞く活動に進んで取り組んでいる。反面、他の人の意見について助言・意見する活動には3割の生徒が苦手だと答えた。

上記のアンケート結果から生徒は国語が好きで、人の意見や新しい考えを取り入れることは好きだが、自分の考えを伝えることには苦手意識を持っていることがわかる。しかしながら、自分の意見を伝えることは大切なことであり、相手にわかりやすく伝える力を身に付けたいとも思っていることがわかる。授業でICTを使用することについての質問では、「わかりやすい」と答えた生徒が大半だった。また、「わからないことをすぐに調べられる」「発表の場面でオクリンクなどを使用すると見やすい」と肯定的な回答が多くあった。

3 研究仮説

仮説1：グループワークを行い、自分の考えたことや他者の意見を共有することで、自分の思いや考えがさらに深まるだろう。

自分の考えを深めるとは、自分の考えと他者の考えを比較して違いを捉え、自分の考えが妥当か判断することである。文章を読んで自分なりに考えたことを深める手立てとしてグループでの意見共有が効果的であると考えた。共有した内容をもとに、自分の意見を深めることで、生徒たちの理解が深まるのが期待できる。

〈手立て〉

【少人数班による学習】

- 役割の設定（リーダー・タイムキーパー等）
- 意見の共有と助言
- 他者の意見を踏まえた意見の手直し
- 3～4人でグループを構成
- 話し合いのリーダーを設け、進行役としての役割を担う

仮説2：ICT機器を活用することで、題材に対する読みが深まり、自分の考えをさらに広げることができるだろう。

自分の考えを広げるとは、新たな考えに気づき、その魅力や価値を発見すること、またそれを自分の考えに生かすことである。読むことを億劫に感じる生徒もいるので、不明なことをすぐに調べることができるタブレットは生徒の学習意欲を高め、理解が深まるのが期待できる。視覚からの情報を得やすいICT機器を使用することで、画像や映像を提示し事例を紹介し、全員が同じイメージを持って学習を進めることができる。また、プレゼンテーション機能を用いてスライドを並べたものを共有し、複数の意見を取り入れることで、自分の考えが広がると考えられる。

〈手立て〉

【ICT機器の活用】

- 発表資料をオクリンクで作成・発表・回収
- 授業内容に関連する事柄や言葉の意味を調べる活動
- 授業内容をモニターに投影
- 写真や動画の提示

第1学年3組 国語科学習指導案

指導者 小倉 信太郎

展開場所 1-3 教室

1 単元名 大公開 筆者が用いた文章表現の秘密

(主な教材：『言葉がつなぐ世界遺産』 伝え合う言葉 中学国語1 教育出版)

2 本単元における言語活動

- ・説明や記録などの文章を読み、本文中にある引用文を書きかえる活動。

(関連：〔思考力、判断力、表現力等〕C(2)ア)

3 単元について

(1) 単元観

本単元は、中学校学習指導要領 国語 第1学年[知識・技能] (2)ア「原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解すること。」、同じく1学年[思考、判断、表現等]C(1)ア「文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握すること。」及びエ「文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えること。」を受けて設定したものである。

この文章は、世界遺産に指定された日光の社寺について、そのものの美しさはもちろん、「修復記録の蓄積」や「世代を超えた技術の伝承」などの言葉を重視した保存の過程に着目して、保存のための技法や技術だけではなく、「思い」も受け継がれていることを職人の言葉を引用しながら説明している文章である。小学校で既に「事実と感想、意見などとの関係を、叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。」、中学校第1学年で『自分の脳を知っていますか』をとおして、「文章を読んで理解したことに基づいて要約し、内容を解釈すること。」を学習している。この指導事項は、本単元にも密接に関わっている。

(2) 生徒の実態 (男子20名 女子17名 計37名)

生徒はこれまでに『自分の脳を知っていますか』や『森には魔法つかいがいる』などの学習をとおして、文章の構成の捉え方や、論理の展開を捉え、筆者の主張を理解する方法を学んできた。

小学校6年時の修学旅行で日光を訪れており、実際に目にした記憶や感想をもとに、現実味をもって学習を行うことができると考える。しかし、日光についての詳しい知識は身につけていない。

今回の単元にある、本文の内容をもとにした編集作業については、生徒たちは独自の編集を加えることで、文章の印象が変わることに気づくだろう。

(3) 指導観

文章の構成の捉え方や、論理の展開を捉え、筆者の主張を理解する方法を身につけている実態から、第1次から2次までは、本文を読み、文章の全体像を把握する学習を行う。第3次から4次では、本文から読み取ったことをもとに、自ら文章を組み立て、仲間と共有し、アドバイスや指摘をもとに、手直しをする学習がある。日光について知識の浅い生徒が多いため、タブレットを使い、日光の社寺に関する画像を見ることで、その雄大な建造物の凄みや繊細な彩色技術を認識させる。また、小グループでの活動を取り入れることで、他者の意見から自らの間違いや他者との違いに気づき、自分の意見を修正し

たり深めたりする力を育むことができると考える。(仮説1)

「」の書きかえをする学習では、要点を押さえながら、文章表現を変えていくことの難しさに直面するだろうが、小グループでの活動により、声をかけあって編集が進められるように設定した。小グループでの活動は、本文を読んで理解したことや考えたことがより明確にまとめられるよう、2次から設定しているため、生徒たちの発展がみられると考えられる。数回の言語活動の中で、自分の考えがどのように変容したり、深化したりしたのか実感できるように、ノートやワークシートに疑問や思いついたことをまとめ、自分の考えの形成の過程を振り返ることができるようにしておく。

4 単元の目標

- ・事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。

[知識及び技能] (1)ウ

- ・文章の中心的部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握することができる。

[思考力、判断力、表現力等] C(1)ア

- ・文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。

[思考力、判断力、表現力等] C(1)エ

- ・言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。

「学びに向かう力、人間性等」

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ)	①「読むこと」において、文章の中心的部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握している。(C(1)ア) ②「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。(C(1)エ)	①粘り強く文章の要旨を把握し、学習の見通しをもって理解したことを報告しようとしている。

6 指導と評価の計画（全5時間）

次	時配	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
第一次	1	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のねらいや流れを捉え、見通しをもつ。 ・「学びナビ」を参考にし、「問いと答え」「事実と意見」を結びつけて読むことについて理解し、通読後に穴埋めを行う。 ・全文を通読する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界遺産に登録された日光の社寺を画像で見せ、その鮮やかさや輝きに触れることで、日光の社寺の景観の素晴らしさについて関心をもたせる。 ・筆者が自分の意見への理解を促すためにどのような手立てをとっているか理解させる。 	
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者が問いかけている文と、その答えにあたる文を探し、本文から事実と意見を整理しながら筆者の意見を捉える。 ・本文にある語句の意味を調べる。 ・本文を形式段落、意味段落に分け、それぞれの段落の題名をつける。 ・小グループ（3～4人）でワークシートを見せ合い、題名を精査する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章中の「問いと答え」「事実と意見」を押さえて読み、筆者の意見を捉えやすくする。 ・国語辞典やタブレットを使い、グループで意味を調べることで誤認を防ぐ。 ・他の班員のワークシートから気づいたことやアドバイスを受けて、加筆修正させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・語句の辞書的な意味と文脈上の意味を理解している。 【知識・技能①】 ・文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握している。 【思考・判断・表現①】 【ワークシート①】
第二次	3	<ul style="list-style-type: none"> ・本文に述べられている問いと答えを捉え、どのような方法で修復方法が伝わっていたかを理解する。 ・小グループ（3～4人）でワークシートを見せ合い、内容を精査する。 ・本文中で人物の語りが「」を用いて表現されていたり、「」を用いずに表現されていたりすることの意図や表現の効果について考える。 ・p 206 の5行目とp 206 の10行目を比較し、「」をつけることの意味を理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文末表現や指示語や接続語に着目し、筆者が伝えていることを読み取らせる。 ・課題が進まない生徒には個別の声かけを行い、前後のメンバーと意見交換を行ってよいことを伝える。 ・他の班員のワークシートから気づいたことやアドバイスを受けて、加筆修正させる。 ・「」をつける時とそうでない時の違いを理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・粘り強く文章の要旨を把握し、学習の見通しをもって理解したことを報告しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 【ワークシート②】

第三次	4 本 時	<ul style="list-style-type: none"> ・「」で引用した内容を、引用ではなく本文の中に入れて紹介する場合、どのように書きかえられるかを考える。 ・教員が書きかえたものを参考にし「」を使わずに書きかえる。(資料①) ・書きかえた内容を小グループ(3～4人)で見せ合い、自分の文章を見直す。 ・書き直したものを全体に発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時で学んだ「」をつけることの意味を踏まえ、書きかえさせる。 ・課題が進まない生徒には個別の声かけを行い、前後のメンバーと意見交換を行ってよいことを伝える。 ・他の班員のワークシートから気づいたことやアドバイスを受けて、加筆修正させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引用文と引用せずに紹介する文を比較し、それぞれの表現の効果について根拠を明確にして考えている。 <p>[思考・判断・表現②]</p> <p>【ワークシート③】</p>
第四次	5	<ul style="list-style-type: none"> ・「言葉がつなぐ世界遺産」という題名に込められた筆者の考え方に対する自分の考え方を、文章にまとめる。 ・前時までの内容を踏まえ、筆者の考えをもとに、自分の意見を書く。 ・書きかえた内容を小グループ(3～4人)で見せ合い、自分の文章を見直す。 ・書き直したものを全体に発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題が進まない生徒にはキーワードを与え、文章を構成しやすくするとともに、個別の声かけを行い、前後のメンバーと意見交換を行ってよいことを伝える。 ・他の班員のワークシートから気づいたことやアドバイスを受けて、加筆修正させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現や情報に気をつけながら、書きかえることができているか確認する。 <p>[思考・判断・表現②]</p> <p>【ワークシート④】</p>

7 本時の指導（4／5）

（1）目標

- ・引用文と引用せずに紹介する文を比較し、それぞれの表現の効果について根拠を明確にして考えることができる。

〔思考力、判断力、表現力等〕（C(1)エ）

（2）展開

時配	学習内容と学習活動	指導・支援 ○評価	資料
3	1 前時までの学習を振り返る。 ・「」をつけることの意味について確認する。	・口頭にて前時の学習内容を確認する。	ワークシート②
2	2 本時の目標と課題の確認 「」を外すことによって、どのような印象の違いが生まれるか考えよう。		ワークシート③
1 5	3 p 208 の 3 行目と p 209 の 4 行目を題材に、「」で引用した内容を、引用せずに本文の中に入れて紹介する場合、どのように書きかえられるかを考える。（資料①）	・教員が作成したもの（p 206 の 4 行目）を明示し、参考にさせる。	ワークシート③ 教科書
1 0	・書きかえた内容を小グループ（3～4人）で見せ合い、メンバーへのアドバイスを記入する。	・読んだ文章に対して、良いと思ったところや、改善した方が良い表現や内容を書かせる。全員分読み終えたところで、1人1人に感想や意見を伝え合う。	感想メモ ワークシート③
5	・アドバイスをもとに、加筆修正をする。		ワークシート③
1 0	・「」を外す前と外した後で、どのような印象の違いがあるかを考える。	・書きかえたものをもとに、二つの文章の違いを捉える。 ○引用文と引用せずに紹介する文を比較し、それぞれの表現の効果について根拠を明確にして考えている。	ワークシート④
5	4 本時の学習を振り返る。 ・印象の違いについて発表する。	[思考力、判断力、表現力②]	

(3) 板書計画

言葉がつなぐ世界遺産

橋本 典明

「」を外すことによつて、どのような印象の違いが生まれるか考えよう。

・職人の言葉を、「」を使わずに書くとしたら、どのような表現になるだろう。

①例を参考にして「」中の文を書きかえる。

②グループ内で回し読み、良い点や改善した方が
良い表現・内容を書く。

③自分のワークシートが戻ってきたら、アドバイスを
をもとに加筆修正をする。

第1学年3組 国語科学習指導案

指導者 小倉 信太郎

展開場所 1-3 教室

1 単元名 真相解明 改定前後の作品を読み、題名を変えた意図を解き明かそう

(主な教材：『少年の日の思い出』 伝え合う言葉 中学国語1 教育出版)

2 本単元における言語活動

・二つの文章を比較し、印象の違いを伝え合う。

(関連：〔思考力、判断力、表現力等〕C(2)イ)

3 単元について

(1) 単元観

本単元は、中学校学習指導要領 国語 第1学年[思考、判断、表現等]C(1)イより「場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えることができる。」を受けて設定したものである。

本教材『少年の日の思い出』は、半世紀以上も教科書に掲載され続け、時代ごとにさまざまな読みをされており、そのたびごとに、新しく命を吹き込まれ、現在まで読み継がれている。「僕」の苦い思い出を語り直す「私」を通して、「語り」や作品の「構造」について考えるきっかけとなると考える。このことは今後、文学的文章を読む上で、必ず生かすことのできる大きな力になるであろう。

また、本教材は、1911年に発表された『クジャクヤママユ』を改稿したものである。二つの文章は、ほぼ同じ内容ではあるものの、表現や設定に若干の違いがある。例えば、最後の「僕」が罪を意識する場面で、少年の日の思い出では「一度起きたこと」と表現されているのに対して、『クジャクヤママユ』では、「一度ダメにしてしまったこと」となっている。この部分だけでも『クジャクヤママユ』での「僕」の罪の意識は「つぶしてしまったクジャクヤママユ」に向けられているが、『少年の日の思い出』での「僕」の後悔の思いは、クジャクヤママユをつぶしたことでなく、それを盗んだこと、エーミールとの関係、母に罪を打ち明けたことなど、さまざまなできごとに向けられていると読み取ることができる。二つの文章を比較することで、作者の書きかえに着目して、「僕」や「エーミール」の人物像や、「僕」の罪の意識を考える学習をすることが効果的と考えた。文章の読み比べを通して、読者に読み取らせたい内容は何かを考えさせたい。

小学校で既に「人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。」、中学校第1学年で『オツベルと象』を通して、「文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えること。」を学習している。この指導事項は、本単元にも密接に関わっている。

(2) 児童生徒の実態 (男子20名 女子17名 計37名)

『言葉がつなぐ世界遺産』では、班への共有の際に、プリントを用いたことで、見づらさやまとめづらさ、共有のしづらさを感じていた生徒が多かった。そのため、意見共有の際にタブレットを活用し、学習意欲の向上を試みる。

(3) 指導観

題名が変わった意図を考える活動においては、二つの文章を読み込み、自分なりの感想を持つことが不可欠であるため、初読の感想を書かせる学習を行う。第1～2次のうちに、物語の内容から登場人物の心情を捉える活動を入れ、その気持ちを共有するようにした。(仮説1) その学習は、書きかえた理由を考察し、班で共有・発表する活動の前段階の練習として有効であると考えている。また、『クジャクヤママユ』においては、『少年の日の思い出』と表現が特に違っているところに線を引かせ、どのような書かれ方をしているかを捉えさせる。加えて、一目で読み比べた印象の良し悪しがわかるようにするために、読み比べた際に感じた印象の違いをレーダーチャートにまとめる学習を取り入れる。また、二つの文章を読み比べて考えたことを、タブレット端末を使ってまとめ、共有することで、自分以外の意見を取り入れることができると考える。(仮説2)

『言葉がつなぐ世界遺産』において学習した「本文から読み取ったことをもとに自ら文章を組み立て、仲間と共有し、アドバイスや指摘をもとに手直しをする学習」が生かされ、生徒の読みが深まることを期待する。

4 単元の目標

- ・比較や分類、関連付けなどの情報の整理の仕方、引用の仕方や出典の示し方について理解することができる。 [知識及び技能] (2)イ
- ・読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解することができる。 [知識及び技能] (3)オ
- ・場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えることができる。 [思考力、判断力、表現力等] C(1)イ
- ・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものに行うことができる。 [思考力、判断力、表現力等] C(1)オ
- ・言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。 「学びに向かう力、人間性等」

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①比較や分類、関連付けなどの情報の整理の仕方、引用の仕方や出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。(2)イ	①「読むこと」において場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えている。(C(1)イ)	①積極的に自分の考えを班で共有し、共感した部分を自分の意見に取り入れようとしている。
②読書が知識を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。(3)オ	②「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものに行っている。(C(1)オ)	

6 指導と評価の計画（全6時間）

次	時配	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
第一次	1	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のねらいや流れを捉え、見直しをもつ。 ・『少年の日の思い出』を通読する。 ・初読の感想をノートに記述する。 ・本文中の語句の意味、登場人物や内容を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・難しい読みの漢字にルビを振らせる。 ・本文中の語句の意味を確かめ、内容理解につなげる。 ・国語辞典やタブレットを使い、グループで意味を調べることで誤認を防ぐ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読書が知識を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。 [知識・技能②] 【ノート】
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・エーミールの人物像がわかる記述を本文から抜き出す。 ・人物像と出来事から、「僕」はエーミールのことをどのように思っているか考え、交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他の班員の意見から気づいたことやアドバイスを受けて、加筆修正させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・エーミールの印象について、自分なりに考察し、人柄をとらえることができている。 [思考・判断・表現①] 【ワークシート①】
第二次	3	<ul style="list-style-type: none"> ・「僕」が盗みを犯すまでの出来事を整理する。 ・「うわさを聞いたとき」「入り口が開いていたとき」「ちょうを間近から眺めたとき」「ちょうを持ち出したとき」「ヤマムガを壊したとき」「自分の収集を潰したとき」の「僕」の気持ちをそれぞれ考え、共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題が進まない生徒には個別の声かけを行い、前後のメンバーと意見交換を行ってよいことを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの場面から「僕」の気持ちを考察することができている。 [思考・判断・表現②] 【ワークシート②】
	4	<ul style="list-style-type: none"> ・『クジャクヤマムユ』を通読する。 ・本文から受ける印象をレーダーチャートにまとめる。 (資料②、③) 	<ul style="list-style-type: none"> ・二つの文章を比較しながら、印象の違いをレーダーチャートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・『クジャクヤマムユ』を読んで感じたことをもとに、『少年の日の思い出』との違いをレーダーチャートにまとめることができる。 [思考・判断・表現①] 【ワークシート③】
第三次				

	5	<ul style="list-style-type: none"> ・なぜ『クジャクヤママユ』から『少年の日の思い出』に題名が変わったのかを考える。 ・作者が『クジャクヤママユ』から『少年の日の思い出』で書きかえた部分を比較し、印象の違いを捉える。(資料④、⑤) ・考えたものを班で共有しオクリンクにまとめる。(資料⑥) 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題が進まない生徒にはキーワードを与え、文章を構成しやすくするとともに、個別の声をかけを行い、前後のメンバーと意見交換を行ってよいことを伝える。 ・他の班員のワークシートから気づいたことやアドバイスを受けて、加筆修正させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・二つの文章を比較し、情報を整理しながら、文章を引用してまとめようとしている。 <p>[知識・技能①]</p> <p>【ワークシート④】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的に自分の考えを班で共有し、共感した部分を自分の意見に取り入れようとしている。 <p>[主体的に学習に取り組む態度①] 【観察】</p>
第四次	6 本 時	<ul style="list-style-type: none"> ・前時でまとめた内容を班ごとに発表する。 ・他の班の発表を聞いて、自分の意見を手直しする。(資料⑦) ・『少年の日の思い出』の学習を振り返って捉え方の変化をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・オクリンクをモニターに映し、全体に発表する。 ・各班の発表をメモしながら聞く。 ・発表を聞いたことをもとに、自分の意見を手直しする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に自分の考えを班で共有し、共感した部分を自分の意見に取り入れようとしている。 <p>[主体的に学習に取り組む態度①]</p> <p>【オクリンク・ワークシート⑤】</p>

7 本時の指導（6／6）

（1）目標

- ・情報を精査してわかりやすくまとめ、発表しようとしている。

〔主体的に学習に取り組む態度〕

（2）展開

時配	学習内容と学習活動	指導・支援 ○評価	資料
3	1 前時までの学習を振り返る。	・口頭にて前時の学習内容を確認する。	ワークシート④
2	2 本時の目標と課題の確認		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 各班の発表を聞いて、自分の意見に取り入れよう </div>			
2 5	3 グループごとに発表をする。 ・二つの文章の印象が改稿前と改稿後でどのように違うか発表する。	・モニターにオクリンクで作成した資料を写す。 ・整然と発表を聞き、メモを取っているか確認する。	ワークシート⑤
	発表の流れ <div style="border: 2px solid black; padding: 5px;"> ①発表は2分間 ②原稿を手元に置き、オクリンクに内容を示しながら行う。 ③聞くときは、ワークシートに各班の内容、感想をメモする。 ④1分後、次の班の発表へ。 </div>	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px;"> ○班ごとに共有した情報を精査してわかりやすくまとめ、発表している。 [主体的に学習に取り組む態度①] 【オクリンク】 </div>	ワークシート⑤
1 0	4 各班の発表をもとに、自分の意見を手直しする。(資料⑦)		ワークシート⑤
1 0	5 本時の学習を振り返る。 ・手直ししたものを発表する。 ・ワークシートを回収する。 ・振り返りシートを記入する。		

(3) 板書計画

【発表について】

- ①発表は2分間
- ②原稿を手元に置き、オクリンクに内容を示しながら行う。
- ③聞くときは、ワークシートに各班の内容、感想をメモする。
- ④1分後、次の班の発表へ。

(モニター画面より)

各班の発表を聞いて、自分の意見に取り入れよう

少年の日の思い出 ヘルマンIIへッセ

○生徒が作成したオクリンク

題名が変わった理由

クジャクヤママユは、蝶についてのことのほうが強調されて書かれていて、この物語と題名自体が蝶の標本や難しい図鑑のようだと思いました

少年の日の思い出は、人間関係についてのことのほうが強調され詳しく書かれていて、人に注目してほしいから題名も人目線になったと考えました。

少年の日の思い出は、人間性を表す話っぽいから分かりやすくされているのかなと少し思いました。

クジャクヤママユ

前翅をひろげて、美しい後翅をあらわにする。眼状紋が特徴的すぎる

←かかん



○発表の様子



【仮説に対する成果と課題】

仮説1：グループワークを行い、自分の考えたことや他者の意見を共有することで、自分の思いや考えがさらに深まるだろう。

○成果

- ・考えを共有する活動では、自分の意見をまとめきれていない生徒に対して、フォローする姿が見られた。
- ・グループワークを経て、難しい問題にも挑戦しようとする姿勢がみられた。
- ・グループワークを重ねるごとにグループ内の会話が増え、個人では解決できない課題でも他者と協力して取り組めるようになった。また、はじめは自分の意見を述べるのが難しいと感じていた生徒も、学年末には、自分の意見を言うことへの抵抗感が減った。

○課題

- ・読む学習や書く学習を苦手とする生徒への支援をさらに工夫する必要がある。
- ・自分の意見をまとめることができていない生徒は、班員の意見を言われるがまま写す形になったことがあった。
- ・教師モデルを提示したことで、似通った意見が多くなってしまった。グループごとにさまざまな意見が飛び交うよう、発問の仕方やワークシートを工夫する必要がある。

仮説2：ICT機器を活用することで、題材に対する読みが深まり、自分の考えをさらに広げることができるだろう。

○成果

- ・書くことを苦手とする生徒でも、自分から意見をまとめることができた。
- ・進んで資料を読み、ワークシートに情報を追加しようとする姿勢が見られた。
- ・インターネットを活用し意味調べを行うことで、迅速に情報を集めることができた。
- ・発表資料（オクリンク）に絵や写真を追加してわかりやすくまとめることができた。
- ・発表の際にオクリンクを用いることによって、クラス全体の意見を把握しやすくなった。
- ・クラスの意見を視覚的に把握しやすくなったことで、他の意見の魅力に気づき、自分の意見に取り入れて改良しようとする姿勢がみられた。

○課題

- ・検索することですぐに答えがわかる状況は、自分で考え、粘り強く取り組む力が低下する恐れがあるため、ICTを用いて学習する場面の取舍選択をすることが必要である。
- ・調べ学習の際に、膨大な情報から適切な情報を選ぶことが難しい。
- ・読みの深まりや考えの広がり、グループワークや全体での発表を通して意見を共有したことによるものが大きく、ICTを使用したことが考えの広がりに直接つながっていたとは言えない。